

# 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①タイラー・コーエン著『大格差』NTT出版 (iii+342+7頁, 四六判)</p> <p>米国と同様、日本でも富裕層と貧困層の差が拡大し、中流階級が消滅し始めているという。こうした流れを牽引しているのがテクノロジーの急速な進化。今後、オートメーションが一段と進めば、この傾向に拍車がかかり、製造業の雇用が大幅に減る。本書は、機械に関する知的財産を所有する者などは非常に富裕になるが、若い男性の多くは、低賃金のサービス業の職にしか就けなくなると指摘。『大停滞』の著者が、技術革新のもたらす所得への影響や労働市場で求められる資質を予測する。果たして社会は15%の大金持ちと85%のその他に分離するのか。経済学の世界では、データの質や実証的な実験の質が高まり、理論の複雑性は強まるが、影響力は強まらないとも予想。</p>	<p>③野村正實著『学歴主義と労働社会』ミネルヴァ書房 (viii+320頁, A5判)</p> <p>戦後の教育改革により、初等から中等、中等から高等教育への接続はスムーズになり、学校教育は労働社会の前提条件になった。本書の課題は、一貫して労働問題研究のテーマからないがしろにされてきた、学歴主義と労働社会の関係を検討することだ。著者は、高学歴が高い社会的威信のある職業に結びつく学歴主義は、男性を中心に官僚主義へとつながった、という。また、年々従事者が減少している自営業の衰退は、雇用慣行の基礎にある学歴主義的価値観を優勢なものにしたと分析。団塊の世代で初期高専生でもあった著者は、数年間しか人気を維持できなかった高専問題をとり上げることによって、日本における学歴社会の成立を論じることができる、とも主張する。</p>
<p>②大久保幸夫他著『女性が活躍する会社』日本経済新聞出版社 (183頁, 新書判)</p> <p>リーダー的立場に占める女性の割合を2020年までに30%に高めると政府が国際的に公約するなど、女性活躍推進は待たなし。本書は、数値目標の設定から達成するまでの実行計画や、出産・育児などのライフイベントに対応できる人事制度改革のポイントをわかりやすく紹介。日本の育児休業は米国やアジアの各国に比べ長い、これらの国の多くでは、子どもを産んだ女性が自分のキャリアを優先、出産後3カ月くらいで職場復帰していると指摘。日本の女性は、せっかく身につけた能力や経験をさびつかせていると警鐘を鳴らす。さらに、①管理職昇進時に女性には下駄をはかせる②この機会に労働時間を見直す③入社直後から女性にもトップギアで走らせる、などを提唱。</p>	<p>④吉田輝美著『感情労働としての介護労働』旬報社 (236頁, A5判)</p> <p>本書は、これまで介護労働の分野ではタブー視されてきた、労働者の「感情」の問題に焦点を当て、介護労働の事実を直視、介護労働者の専門性を強化していく方法を探るのが目的。介護サービスの利用者やその家族から発せられる心ない言葉にも耐えて働いてきた介護サービス分野の人材不足が問題になって久しいが、遅々として改善が進まないのは、低賃金や職務に対する社会的評価の低さだけが原因ではないと指摘。離職率の高止まりや人材難がいつまでも続くなか、特別養護老人ホームでの調査やケアマネジャー等に対するインタビュー調査に基づき、介護労働者を管理する組織が労働者を守り、支援・育成していくことが不可欠だと強調する。博士論文に加筆・修正した。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2015年1—2月労働図書館受け入れ)

- ⑤ エリック・シュミット他著『How Google works』日本経済新聞出版社 (371頁, A5判)
- ⑥ 戸田智弘著『ことわざで働き方を考えよう』T Oブックス (247頁, 四六判)
- ⑦ 山崎亮著『ハードワーク! グッドライフ!』学芸出版社 (235頁, 四六判)
- ⑧ 岡崎昌之編『地域は消えない』日本経済評論社 (ix + 369頁, 四六判)
- ⑨ 藤本豪著『中国ビジネス法体系』日本評論社 (xxi+632頁, A5判)
- ⑩ 経済協力開発機構(OECD)著『格差拡大の真実』明石書店 (459頁, B5判)
- ⑪ 小崎敏男他編著『人口高齢化と労働政策』原書房 (ix+253頁, A5判)
- ⑫ ビーター・ティール他著『ゼロ・トゥ・ワン』NHK出版 (253頁, A5判)
- ⑬ 山口昭著『ビジネス法務の部屋からみた会社法改正のグレーゾーン』レクシスネクスト・ジャパン (248頁, 四六判)
- ⑭ F・アマトリー他著『ビジネス・ヒストリー』ミネルヴァ書房 (xviii+400+14頁, A5判)
- ⑮ 後藤康雄著『中小企業のマクロ・パフォーマンス』日本経済新聞出版社 (235頁, 四六判)
- ⑯ 島森俊次他著『アジアへ進出する中堅・中小企業の「失敗しない」人材活用術』日本生産性本部生産性労働情報センター (iii+173頁, A5判)
- ⑰ 原ひろみ著『職業能力開発の経済分析』勁草書房 (ix+282頁, A5判)
- ⑱ 山井和則著『政治はどこまで社会保障を変えられるのか』ミネルヴァ書房 (xvi+208+2頁, A5判)
- ⑲ 石寄信憲他著『労働行政対応の法律実務』中央経済社 (iii+29+iv+843頁, A5判)
- ⑳ 労務行政研究所編『新・労働法実務相談』労務行政 (599頁, AB判)
- ㉑ 小島明著『労働法の「常識」は現場の「非常識」』中央経済社 (ii+vi+201頁, 四六判)
- ㉒ 前澤植著『ブラック企業に泣き寝入りしないための労働相談Q & A』学習の友社 (107頁, A5判)
- ㉓ 菅野和夫他編『人事・労災補償・安全衛生』第一法規 (14+529頁, A5判)
- ㉔ 菅野和夫他編『賃金・労働時間・休暇』第一法規 (13+371頁, A5判)
- ㉕ 崔勝漢著『外から見た日本の雇用』八千代出版 (viii+177頁, A5判)
- ㉖ 日本キャリアデザイン学会著『キャリアデザイン支援ハンドブック』ナカニシヤ出版 (vii+250頁, A B判)
- ㉗ 小林包美著『個別労働紛争あっせん制度の実務と実践』第一法規 (xi+341頁, A5判)
- ㉘ 宮本太郎編著『地域包括ケアと生活保障の再編』明石書店 (280頁, 四六判)
- ㉙ 川崎市生活保護・自立支援室編『現場発! 生活保護自立支援川崎モデルの実践』明石書店 (223頁, A5判)
- ㉚ 北澤孝太郎著『営業部はバカなのか』新潮社 (217頁, 四六判)

### 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書115,000冊、洋書30,000冊、和洋の製本雑誌25,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30 ~ 17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

労働図書館 HP: <http://www.jil.go.jp/lib/index.htm>

利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

